

世界統一FASS検定

FASS Global Accreditation

現在、世界のCFO協会が組織する

IAFEI (国際財務幹部協会連盟、会長・谷口宏)の公式プロジェクトとして、

FASS検定を世界の経理・財務実務検定へと発展させ、

経理・財務の国際資格を創設しようという試みが進められています。

「」〇〇八年一〇月にパリで開催されたIAFEI年次総会にて、日本CFO協会の提案を受けた経理・財務の国際資格創設に向けた取り組みが、公式プロジェクトとしてスタートしました。まずは日本・中国・台湾・韓国・フィリピン・ベトナム・インドネシアといったアジア七カ国のCFO協会が参加してプロジェクトを進めることになりました。〇九年一〇月のハノイ会議、一〇年九月の香港会議を経て、CFOや財務幹部クラスを目指すため上級資格である「レベル2」と実務経験八年から一〇年前後の中堅クラスを対象とした「レベル1」の二種類の体系が国際資格の体系の概略として決定されました。

当

面の取り組みとして、日本のFASS検定をベースに「レベル1」の開発から着手することになり、一〇年二月には七カ国の協会の専門家が東京に集まりワークショップを実施しました。インストラクションデザイナーの専門家で、FASS検定の開発を当初より指導した関西大学の山本敏幸教授の指導のもと、英語に翻訳されたFASS検定の試験問題二〇〇問を、どの程度まで各国で普遍的に適用できるかといった観点から各国の専門家が二日間にわたって分析作業を行いました。

国

によって商慣行や規制環境の違いがある中で、国境を越えた統一の経理・財務実務の試験開発は難しいのではないかと、といった事前の参加者の予想とは大きく異なり、そのまま各国でも適用できるといった問題が七〇%近くあったことをはじめ、軽微な修正だけで実用可能な問題も含めれば、八〇%前後は国を越えても実用可能という結果になりました。会計制度の違いはあれ、実際に企業の現場で行っている経理実務のプラットフォームが共通であるとの認識は、このプロジェクトに大きな可能性を与えることになりました。

経

理・財務実務は国によって大きく違うために共通化できないのではないかと当初は想定していました。したがって、FASS検定の土台である「経理・財務サービス・スキル・スタンダード」を活用し、各国がそれぞれ主催している試験や資格制度についてのどの分野の実務スキルを対象としたものかを相互参照できるようにしようというプロジェクトを予定していました。FASSの試験体系を世界共通のコード体系とすることで、各国の資格制度が一つの共通言語で比較できるようにしようというプロジェクトは、東京でのワークショップでの成果を受けて、

世界統一の試験制度の開発という、より大きく踏み込んだプロジェクトへと進展したのです。

現

在、日本CFO協会はアジア各国の現地語に翻訳したFASS検定問題を準備し、アジア各国の現地拠点で働く現地スタッフを対象としたパイロット試験を実施するなど、世界統一FASS検定実用化に向けた実証実験を準備しています。来年度に行うこの実証実験の分析結果をもとに、世界統一のFASS検定の実用化が予定されています。

F

ASS検定が世界各国で実施されるようになれば、グローバルな人材採用や人材配置、人材育成が課題となる多くの企業で貴重な材料となるでしょう。グローバル化が今後ますます進む中、経理・財務業務の標準化、経理・財務の人材育成といったインフラについては、一企業だけでなく一カ国だけの努力でもなく、世界共通のインフラとして効率的に活用していくことが望ましいでしょう。現在アジア地域で進めているこのプロジェクトを今後世界に広げていくことが期待されます。

